

## かんきつ「不知火」の根の特性

「不知火」の根の伸長は7月上旬から下旬にかけて最も多く、次に9月中旬から下旬に多い。また、「不知火」は、他のかんきつと比較して根量が少なく、直径5 mm 以上の大根および中根の割合が小さい。

農業研究センター果樹研究所病虫化学部（担当者：相川博志）

## 研究のねらい

「不知火」は糖度が高く、食味が良好なことからかんきつ産地で栽培面積が増加しているが、樹勢低下による収量の減少や果実の酸高といった問題が発生しており、樹勢低下の要因として地下部（根）の問題があげられる。

このため、「興津早生」、「川野なつだいたい」を対照に「不知火」の根の特性を解明し、樹勢低下対策の資料とする。

## 研究の成果

- 1 「不知火」の根の伸長のピークは、「川野なつだいたい」より1カ月遅い7月上旬から下旬である。
- 2 「不知火」の秋季の根の伸長は、「興津早生」の秋根伸長のピークより1カ月早く、9月中旬から下旬に多い。
- 3 「不知火」の根量は、「興津早生」および「川野なつだいたい」と比較すると少ない。
- 4 「不知火」は、「興津早生」および「川野なつだいたい」と比較して大根および中根の割合が小さい。
- 5 「不知火」の地上部の生育は、「興津早生」および「川野なつだいたい」と比較して小さい。
- 6 「不知火」の根の伸長は7月上旬から下旬にかけて最も多く、次ぎに9月中旬から下旬に多い。また、「不知火」は、他のかんきつと比較して根量が少なく、大根および中根の割合が小さい。

## 普及上の留意点

- 1 根域を制限した根箱による無着果樹の調査結果であるため、露地栽培の着果樹とは異なる。
- 2 本試験データは、無毒化および弱毒ウィルスを接種されていない「不知火」の調査によるものである。

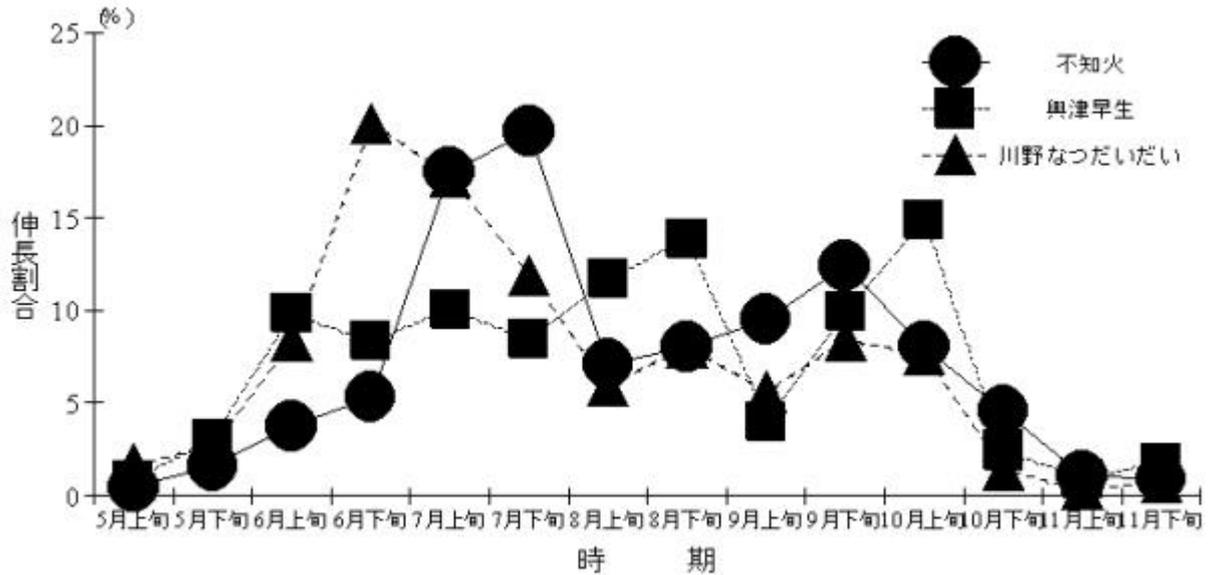


図1 品種別の根の伸長時期

注) Y軸の数値は年間の根の伸長量を100とした時の割合(%)

表1 品種別の根量(g)および根径別構成割合(%)

品 種	根 幹	大 根	中 根	小 根	細 根	総重量
	g	g	g	g	g	g
不 知 火	456.5 (57.4%)	60.7 ( 7.6%)	47.2 ( 5.9%)	90.0 (11.3%)	140.5 (17.7%)	794.9 (100%)
興津早生	552.5 (39.1%)	181.4 (12.8%)	197.5 (14.0%)	226.7 (16.1%)	253.7 (18.0%)	1411.8 (100%)
川野なつ だいだい	695.6 (49.4%)	291.0 (20.6%)	89.7 ( 6.4%)	126.9 ( 9.0%)	206.3 (14.6%)	1409.6 (100%)

注1) 根の区分(直径別)

大根: 10mm, 中根: 5mm以上~10mm未満, 小根: 2mm以上~5mm未満, 細根: <2mm

注2) 1年生苗を植え付け3年後に解体した調査結果(平成12年4月)

表2 品種別の地上部生育

品 種	幹 周			樹容積
	植付時(H9)	H11	肥大率	
	cm	cm	H11/H9	m <sup>3</sup>
不 知 火	3.7	12.0	3.28	0.57
興津早生	3.5	12.4	3.52	0.74
川野なつ だいだい	3.7	13.6	3.70	0.87

注) 樹容積は植え付け3年後の数値